

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学  
平成22事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成23年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

## 1 全体評価

### 評価結果と判断理由

#### 評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

#### 判断理由

○大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価については、S評価が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価についてはA評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、美術科における、生活造形の授業へのプロダクトデザインの組み入れや、国際文化学科における「観光ビジネス英語」の導入などカリキュラムを見直したこと、特別講座の実施や、地域貢献活動をサポートするために開設された「地域活動室」などを通じ、地域との連携を強化したことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられたことからS評価（特筆すべき進行状況にある）とした。

その他、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目において、新規の外部資金を積極的に申請、獲得したことなど特筆すべき事項があった。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

#### <委員会からのコメント>

- ・大分県立芸術文化短期大学は、中期目標の達成に向けた年度計画を着実に実行しており、社会や学生のニーズに応じたカリキュラムの見直しを行うとともに、特別講座の実施や地域貢献活動をサポートするために開設された「地域活動室」などを通じた地域との連携強化を図るなど、積極的な取り組みが進められている。また、こうした活動を推進するに当たって外部研究資金の獲得に努めている。
- ・特に、地域連携について、多くの地域に出向き、地域の芸術性の向上に寄与したことや、学生が社会と関わることで県内就職率の向上につながったことなど委員会として高く評価した。
- ・中期目標期間（H18～H23）最後の1年だが、本中期計画の達成と次期目標期間に向け、更に魅力ある大学づくりの取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

## 2 大項目評価

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

#### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### (2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、83項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、美術科における、生活造形の授業へのプロダクトデザインの組み入れや、国際文化学科における「観光ビジネス英語」の導入などカリキュラムを見直したことで、特別講座として、地域住民が参加できる「ふるさとスケッチ」や「国際文化フェスタ」などを実施したこと、地域貢献活動をサポートするために開設された「地域活動室」の指導を通じ、地域活動が活発化したことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。特に、地域連携について、多くの地域に出向き、地域の芸術性の向上に寄与したことや、学生が社会と関わることで県内就職率の向上につながったことなど委員会として高く評価した。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
- 小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。  
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
- (I-1-(1)イ(ア))【2】  
(I-1-(1)イ(ウ))【2】
- 教育内容の充実
- ・美術科において、デザイン専攻の生活造形の授業にプロダクトデザインを組み入れた。
  - ・音楽科において、楽典到達度別クラスを導入し、全体の底上げが図られた。
  - ・国際文化学科において、観光ビジネス英語など学生のニーズに応じた科目を導入した。
  - ・情報コミュニケーション学科において、「大分ツーリズム講座」を新設し、講義と「竹田キャンパス」を拠点とした体験学習を組み合わせ実施した。
- (I-1-(2)ア(オ))【2】
- 特別講座の実施
- ・美術科において、地域住民も参加する「ふるさとスケッチ」を杵築市及び法泉寺温泉で開催した。
  - ・国際文化学科において、「国際文化フェスタ in 竹町」や公開講座「府内南蛮ゼミナール」並びにパネル展などを開催し、多くの学生が参加した。
- (I-1-(2)イ(ア))【2】
- 補習授業の充実
- ・情報コミュニケーション学科において、学生の日本語能力・作文能力の向上を図る

ための補習授業を行った結果、各種作文コンクールなどで入選するなど指導の成果があがった。

(I-1-(4)ウa)【2】

○大学の知名度向上の取組

・県内全高校へ、述べ81回もの訪問を実施するとともに、学生を広く全国から確保するため、中国、四国、九州の高校104校を訪問した。

(I-1-(4)ウabc)【2】

(I-1-(4)ウef)【2】

○進路支援体制の確立

・美術科、音楽科の進路支援主任を1名増員し、体制を強化した。  
・学科及び専攻科2年生の保護者を対象に進路説明会を開催した。また、保護者向けの進路相談用のメールアドレスを設定し、保護者との連携体制を強化した。

(I-2-(2)アウ)【2】

○外部研究資金の獲得に向けての取組

・科学研究費補助金については、9件の申請を行い、研究者及び分担者としてそれぞれ新規1件を獲得したほか、分担者として継続分3件を獲得した。さらに、文化庁の補助金を新たに獲得した。

(I-3-(1)ア(ア)a)【2】

○「地域活動室」による指導を通じた、地域活動の活発化

・「ナラティブ能力養成講座」で学生に地域活動の記録を記事にし、発表の機会を設けるなど、活動を単なる体験で終わらせなく、自分の物語となるよう、「地域活動室」による指導を行った。

・サービスマーケティング履修者は、情報コミュニケーション学科の35%にものぼり、30時間以上の地域活動を行い単位を修得した。

(I-3-(1)イ(オ)a)【2】

○社会貢献活動の認証評価機関の評価

・認証評価機関の評価において、「地域巡回演奏会」など音楽科の学生による多くの演奏の機会の提供が、地域貢献への意識の向上に役立っているとの評価を得た。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	50 ( 9)			43 ( 2)	7 (7)
研究	10 ( 4)			9 ( 3)	1 (1)
社会貢献	23 ( 9)			21 ( 7)	2 (2)
合 計	83 (22)			73 (12)	10 (10)
ウエイト考慮 後の合計	105			85	20

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、83項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○学生を個別的に、このように育てほしい、育成したいという目標に向かって非常に丁寧に、きめ細やかな教育が滲み出ていると感じた。  
○地域連携について、多くの地域に出向き、地域の芸術性の向上に寄与したことや、学生が社会と関わることで県内就職率の向上につながったことなどは評価できる。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。  
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	5			5	
人事の適正化	2			2	
合計	7			7	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

### Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

#### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### (2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、外部研究資金の獲得に向けて積極的に取組み、新規の外部資金を獲得するなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

##### ※特筆すべき項目

小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。

なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。

（Ⅲ-2-(1)ab)【2】

##### ○外部研究資金獲得の取組

- ・文化庁地域伝統文化総合活性化事業において「大分県下における無形民俗文化財ハイビジョン映像アーカイブ作成」が採択された。
- ・平成23年度の科学研究費補助金獲得に向け9件の申請を行った。



【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	2			2	
外部資金等の 獲得	3 (1)			2	1 (1)
資産の適正管 理・有効活用	0				
合 計	5 (1)			4	1 (1)
ウエイト考慮 後の合計	6			4	2

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし
------

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、2項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。  
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	2			2	
情報公開	0				
合計	2			2	
ウエイト考慮 後の合計	2			2	

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、2項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。  
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	1			1	
安全管理	3			3	
人権啓発推進	1			1	
合 計	5			5	
ウエイト考慮 後の合計	5			5	

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし